

教科	国語	科目名	現代の国語	単位数	2
学科	全	学年	1 学年	履修区分	必修
使用教科書	東京書籍『新編 現代の国語』				
副教材など	数研出版『クリアカラー 国語便覧』、尚文出版『常用漢字クリア五訂版』、『常用漢字クリア五訂版 別冊トレーニングノート』、国語辞典・古語辞典・漢和辞典				

### 1. 科目の目的

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

### 2. 授業の内容と進め方

論理的な文章や実用的な文章、表現や情報に関するさまざまな資料や文章を読み、次のことを学んでいきます。

- ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解し、話し言葉と書き言葉の特徴や使い方について、さまざまな教材をもとに話・文の組み立て方、表現技術を学ぶとともに語感を磨き、語彙力を豊かにしていきます。
- ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点の把握、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、書き手の意図を考え、自分の考えを深めることにつなげていきます。
- ・話や文章に含まれている情報について主張と論拠など情報と情報との関係について、個別の情報と一般化された情報との関係について、推論の仕方、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め、また、引用の仕方や出典の示し方について学んでいきます。
- ・スピーチ、報告や連絡、案内、話し合い、紹介、発表、意見文を書くなどの活動を通して目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、自分の考えが的確に伝わるよう、場の状況に応じて資料や機器の効果的な使い方や表現の工夫の仕方について考えていきます。
- ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めていきます。

### 3. 学習する上での留意点

- ・準備するように指示された教材は必ず学校に持参すること。
- ・配布されたプリント類はノートに貼るなどして、わかりやすく、見やすく整理すること。
- ・授業に集中して臨み、ノートをきちんととり、必要なこと、大事だと思ったことは指示されなくてもメモしたり、まとめたりすること。
- ・発表等の活動においては他者の意見にしっかりと耳を傾け、理解に努めるとともに、自らの考えを広げたり深めたりするものとしていくこと。
- ・不確かな言葉があった場合は、必ず辞書を引いて正確な表現や理解に努めること。
- ・家庭学習として出されたものは、わからないことがあれば質問したり、調べたりするなどして、自分の力で言い、提出期限を守ること。

### 4. 課題等について

- ・授業で取り組んでいる内容について、調べ学習や自分の意見をまとめたり、発表資料をつくらしたりする課題を出すことがあります。
- ・春、夏、冬等の長期休業中に語彙を豊かにし、知識を深め、感性を磨くための課題を出します。

### 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

### 6. 評価の方法

定期考査・小テスト・学習活動への参加の姿勢や授業ノート・提出された課題によって評価する。

《指導計画》 科目名 現代の国語

1 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	授業を受けるにあたっての心構えについて  「こそめスープ」  【話す・聞く】「大切なものを紹介しよう」	○国語の学習について理解するとともに、「学び」について考える契機とし、高校生活への抱負を新たにす。  ○筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。	定期考査、小テスト、教材の準備、学習活動への参加姿勢や態度、授業ノート、作品、課題の提出状況により、総合的に評価する。
	5	「ルリボンカミキリの青」  中間考査	○適切な話題を決め、自分の考えを論理的に説明する。相手に伝わりやすい表現を工夫しながら話す。  ○筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。	
	6	「水の東西」  中間考査	○筆者が述べる日本と西洋それぞれの「水」に対する思想的確に理解する。日本と西洋の文化の違いについて自分の考えを深める。	
	7	「未来を作る想像力」  【話す・聞く】「大切なものを紹介しよう」  期末考査	○情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張を  ○説明内容を論理的に整理し、相手を意識して話をしよう。	
		「無彩の色」	○色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観をつかむ。	
	9	「りんごのほっぺ」  ことわざ・故事成語について知る  中間考査	○・出来事の流れに着目しながら戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。  ○自分が好きな「ことわざ」や「故事成語」について発表する。	
	10	「美しさの発見」  「鍋洗いの日々」	○「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。	
11	・憧れの職業について調べて、発表する。  期末考査	○自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。  ○調べたことを整理し、考えたことをわかりやすくまとめ、発表する。		
三 学 期	1	「真の自立とは」	○「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	
	2	学年末考査		
	3	・資料を活用して発表する。	○テーマを設定し、資料や機器を効果的に用いながら、発表する。	